



就任のご挨拶

令和2年7月5日付で下田メディカルセンターの開設管理者に就任しました下田市長の松木正一郎です。

当センターが開院して早8年、今や賀茂地域にとってなくてはならない存在となりました。これも杉原理事長、畑田院長、原施設長を始めとする、医師、看護師、コメディカル、事務職員の皆様のためまぬ努力の賜物と、ここに改めてお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大のもと、医療関係者の皆様は、日々非常な緊張の中にあることと思います。その命がけの崇高な職務は人々の尊敬を集め、敬意と感謝のメッセージとして、東京タワーや橋や建物を青くライトアップしたり、ブルーインパルスが都心の空に真っ直な線を描いたりしたのはご承知のとおりです。

ここ賀茂地域においては、高齢化率が極めて高いことから通常の医療だけでも厳しい上に、夏期の観光客やさらには新型コロナ感染症まで含めた多様な医療サービスの提供が求められており、技術的にも経営的にもたいへん困難な課題となっています。

そして、このような厳しい環境にある当地域の2次医療圏を支えているのが、まさに下田メディカルセンターであり、行政としてもできる限り支援していくことが重要であるとの認識のもと、県の医師派遣事業の継続について要望してまいります。

今後とも持続可能な医療体制の確保について、ご理解とご協力をいただけますようお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。



一部事務組合下田メディカルセンター 管理者
下田市長

松木 正一郎

ご挨拶

一端沈静したと思われた新型コロナ感染症は、大都市中心に再び感染拡大を示し始め、我が伊豆半島でも感染される方が徐々に増えてきています。東京方面からの観光客は今後増えることが予想されるために、我々医療関係者には今後も当分の間は新型コロナ感染症に対応しながらの日常診療が求められます。私ども下田メディカルセンターは、賀茂圏域の第2種感染症指定病院として、これまでも帰国者・接触者外来者の受け入れ、新型コロナ感染症陽性者の入院治療を担当してきましたが、観光客が一挙に増える夏以降の状況については、これまで以上の緊張感をもった対応が求められると覚悟しているところです。しかし、地域の通常診療を守りながらコロナにも対応するのは至難のことであり、県や市町の行政機関の方々、医師会の先生方、保健所・消防署の方々、介護関係の方々等、関係各機関との緊密な連携が大切になってきます。地域の先生方との顔の見える関係の醸成を目的としたメディカルイブニングセミナーを始めとする各種会議等も中止とせざるを得ず、皆さまと疎遠になりがちですが、ICT等を活用しながら連携の維持に努めて参りますので、関係の皆さまにはご協力いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

私ども医療関係者が一つになって、未曾有の国難となっているコロナ禍からこの地域を守っていけますよう祈念してご挨拶と致します。

下田メディカルセンター 病院長 畑田 淳一



内科

よしだ たかあき

吉田 貴光



初めまして、内科の吉田貴光です。前年度まで静岡市にある静岡県立総合病院で研修医として勤務させていただいておりましたが、今年度より下田メディカルセンターに勤務させていただき3ヶ月が過ぎました。まだ研修医上がりのため慣れない部分も多々あり、皆様に御迷惑をおかけしておりますが、忙しいながらも充実した毎日を過ごさせていただいております。医師3年目で色々な患者さん・疾患が診れる下田メディカルセンターに派遣していただき、大変光栄に思います。

外来は時間が制限されており、患者さんの悩み・お話を全て聴くことは難しいですが、なるべく患者さんとの時間を長くし、寄り添えるように努力しております。「患者さんが医師に聞いていけないことはない」を信念に診療しております。何かお困りのことがございましたら、お訪ね下さい。

将来的には内科専門医ではなく、産婦人科専門医を目指しております。最初から産婦人科のみに従事しますと診れる範囲が非常に狭くなってしまうと考え、患者さんの全身状態・背景を考えることのできる内科で働かせていただいております。将来的には子供～ご高齢の方まで診れる医師を夢見ております。腕を磨き、貪欲に知識をつけていき、いつか下田のように医師が不足している地域で働くことを考えております。

まだまだ理想像には程遠いですが、精一杯診療していきますので、今後とも何卒よろしくお願いいたします。

リハビリテーション科～言語聴覚士(ST)～

四月一日付で医療技術部リハビリテーション科に配属となりました言語聴覚士の岡田と申します。

当院にはこれまでに言語聴覚士が在籍していなかったとのことで、今回は言語聴覚士についてご紹介させていただきます。言語聴覚士(ST)は正式名称を「Speech-Language-Hearing-Therapist」といい、人間にとって重要な「話す」「聞く」「読む」「書く」といったことばによるコミュニケーションや、「食べる」といった嚥下機能に課題を抱えた方を対象とし、問題の本質や発現メカニズムを明らかにし、対処法を見出すため検査・評価の後必要に応じて訓練、指導、助言を行います。ご本人やご家族とともにその方らしい生活や人生の回復をめざし、支援する専門職です。



我が国においては医療機関・保健・福祉機関、教育機関など幅広い領域で活動し、医療機関では医療従事者の一員として理学療法士・作業療法士とともにリハビリ専門職を構成しています。



当院では入院患者様に対し、脳の損傷による言語障害(構音障害・失語症等)や、音声障害(声帯障害)、聴覚障害(伝音性難聴・感音性難聴)、記憶・注意・社会的行動障害などの高次脳機能障害、摂食・嚥下機能障害への訓練や指導・助言を行い、他職種と連携しサポートを行っていきます。

患者様やご家族様の気持ちを尊重しながら、お一人お一人がコミュニケーションや食べる楽しみを感じ、その方らしい生活を送っていただけますよう、リハビリサービスを提供したいと思っております。

回復期リハビリテーション科

私たちリハビリテーション科、回復期チームは患者様の身体機能・動作能力の回復を図ると共に、住み慣れた地域で再び生活が送れるように患者様各人に合ったリハビリテーションを提供しております。

この地域特有の地形や家屋構造に合わせた動作の練習や実際に患者様のお宅に訪問し、動線の確認や手すりなどの環境調整を他職種と連携しながら行っております。また、ご家族への介助方法の指導や注意点などの説明を行い、試験外出・外泊をしながら安全な在宅生活が送れるように退院を支援させて頂いております。

前年度の回復期病棟の在宅復帰率は98.1%、新規入院患者における重症者の割合は27.2%と重症な患者様へのリハビリテーションも提供しながら、高い在宅復帰率を維持しております。また、施設入所される方にもその方らしい生活が送れるように日常生活動作の練習に加え、趣味や役割などを一緒に考え、より充実した生活が送れるように病棟スタッフと連携しながらリハビリテーションを提供しております。

開院当初、理学療法士(PT)4名、助手1名でしたが、現在は理学療法士16名、作業療法士(OT)2名、言語聴覚士(ST)1名、助手1名の計20名となりました。今年度よりSTが加わった事で更に幅広く、質の高いリハビリテーションを提供出来る環境になりました。今後もスタッフ一丸となって邁進して参ります。



看護部紹介

外来部門

外来部門は患者様との、ファーストタッチの部署です。開院以来右肩上がり患者様も増加し大変うれしい反面、業務が多忙で患者様と接する時間が短くなってしまふことが気がかりです。また待ち時間等で大変ご迷惑をおかけしています。

外来スタッフ一同、患者様・ご家族のご要望に応えられるように努力してまいります。スタッフにはお気軽にお声掛けください。
外来科長 石崎広宣



3A病棟

3A病棟は内科急性期病床33床と地域包括ケア病床16床となっています。高齢化が急速に進むこの地域には無くてはならない病棟になってきました。職員も昼夜を問わず急な入院に即対応できるように常に緊張感を持って勤務をしています。

病棟は明るく元気な印象が常にあり、他部署とのコミュニケーションも良好です。相談員やコメディカル部門と積極的にカンファレンスを行いスムーズな入院退院支援を行っています。
看護科長 稲葉圭子

回復期病棟(3B病棟)

回復期病棟は患者様の身体機能・生活動作能力の回復を図り地域で再び生活が送れるようにリハビリテーションを提供しています。

病棟の特徴として患者様は地域住民が多く医療スタッフも地元がほとんどでアットホームな雰囲気があります。日曜日以外はリハビリが毎日あり日曜日は病棟レクリエーションを行い患者様同士の交流も大切にしています。また身体拘束ゼロに取り組み患者様の尊厳を守った看護を目指しています。
看護係長 吉田睦子

外科混合病棟

当病棟は、手術治療を目的とした患者様を中心に、がん終末期患者様や内科・小児科とまさに「混合病棟」として患者を受け入れ、日々「地域の医療を支えたい」という気持ちで看護を提供しています。地域の特性として高齢患者様が多く、認知症の方も入院されます。認知症ケアと急性期医療の両立は困難な事もありますが、職員全員がよりよい看護を提供することを目標にこれからも努力して参ります。
看護科長 宗村礼子

手術室

昨年は1,600件の手術を行いました。最も多いのは眼科で、硝子体手術や乱視矯正のレンズ、多焦点レンズを使用した最先端の白内障手術です。全身麻酔の大きかりな手術は整形外科の外傷や人工関節置換術、外科の、胃、結腸、直腸、乳がんの悪性腫瘍切除術、脳外科のV-Pシャントなどです。

患者様が安心して手術をお受けになれるよう、確実に準備を行い、安全に出来るように緊張感をもって携わっています。
看護係長 山本達也

4月からの診療変更について

- 整形外科** 土肥 憲一郎先生(非常勤へ) 水曜日、木曜日、第1・第5金曜日の外来となります。
※金曜日は予約外診察となります。
- 循環器内科** 毎週水曜日から毎週木曜日へ変更 ※静岡医療センターより派遣
第1金曜日の曾先生と第4金曜日の小原先生の診療に変更はありません。
- 泌尿器科** 毎週水曜日から毎週木曜日へ変更 ※海老名総合病院より派遣

退職医師について

- 内科 原 威史先生 ●泌尿器科 牧 泰宏先生
- 循環器内科 今木 隆太先生
- 耳鼻咽喉科 賀屋 勝太先生
- 整形外科 小川 高志先生

編集後記

新年度がスタートして5か月たちました。今年はコロナの流行に伴い、色々な影響が出ました。外出が出来なかったり、友人等にも会えない、学校が休校になったり大人だけではなく子供達もストレスが溜まりそうです。私はそれと同時に自宅にいる時間が増え自宅にいる中での趣味が見つかったり少し嬉しい発見が出来ました。皆様もストレスを溜めすぎないよう工夫をして乗り切りましょう!!



発行 下田メディカルセンター

〒415-0026 静岡県下田市6丁目4-10
TEL.0558-25-2525 FAX.0558-25-5050
<http://www.s-m-a.or.jp/shimoda/>

発行責任者 地域医療連携室長 吉野 清志

アクセス 伊豆急下田駅から徒歩10分圏。路線バスのバス停も目の前にあり、電車やバスでスムーズに来院いただけます。また、敷地内に300台収容の駐車場を用意しております。



SHIZUOKA MEDICAL ALLIANCE 医療法人社団 静岡メディカルアライアンス 運営施設

- みなとクリニック(外来)**
〒415-0152 静岡県賀茂郡南伊豆町湊674
TEL.0558-62-0005
- しらはまクリニック(外来)**
〒415-0012 静岡県下田市白浜1528-2
TEL.0558-27-3700

- なぎさ園(介護老人保健施設)**
〒415-0152 静岡県賀茂郡南伊豆町湊674
TEL.0558-62-6800
- 海老名ケアサポートセンター**
(今里クリニック・介護住宅事業所・サービス付高齢者向け住宅)
〒243-0423
神奈川県海老名市今里一丁目10番12号
TEL.046-232-0606